

携挙～大艱難時代～キリストの再臨

携挙（空中再臨） Rapture

1. 携挙とは何か？

(1) 携挙とは、「キリストが空中に再臨する時に、地上にあるすべての真のクリスチャンが天に挙げられ、不死の体を与えられる」ことを表す、神学用語である。

***携挙とは、史上最大級の、栄光に満ちたイベントである。**

A) 「主は、号令と、御使いのかしらの声と、神のラッパの響きのうちに、ご自身天から下って来られます。それからキリストにある死者が、まず初めによみがえり、17 次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです。このようにして、私たちは、いつまでも主とともにいることとなります。」（第一テサロニケ 4：16-17）

B) 「聞きなさい。私はあなたがたに奥義を告げましょう。私たちはみな、眠ることになるのではなく変えられるのです。52 終わりのラッパとともに、たちまち、一瞬のうちにです。ラッパが鳴ると、死者は朽ちないものによみがえり、私たちは変えられるのです。」（第一コリント 15：51-52）

C) これらの聖句から、よほど比喩的に解釈しなければ、携挙を否定できないことがわかる。

2. 朽ちない、栄光の体に変えられる。

- (1) 不滅性を持つ体。
- (2) 栄化された体。罪の性質から完全に解放される。
- (3) 多次元の体：復活のイエスと同じようになる。
- (4) 永遠の祝福が始まる。

「彼らはもはや、飢えることもなく、渴くこともなく、太陽もどんな炎熱も彼らを打つことはありません。17 なぜなら、御座の正面におられる小羊が、彼らの牧者となり、いのちの水の泉に導いてくださるからです。また、神は彼らの目の涙をすっかりぬぐい取ってくださるのです。」（黙示録 7：16-17）

3. 教会はキリストの花嫁となり、天において婚姻が行われる

「私たちは喜び楽しみ、神をほめたたえよう。小羊の婚姻の時に来て、花嫁はその用意ができたのだから。花嫁は、光り輝く、きよい麻布の衣を着ることを許された。その麻布とは、聖徒たちの正しい行いである。」

4. 携挙の時期を、大艱難時代の直前とみる根拠。

(1) パウロは、携挙の説明の後に、弟子たちに主の日が襲うことは無いと保証した。

*ここで言及されている「主の日」は、人々が偽りの平和を感じている時に突然来る。

*大艱難時代は、史上最大の苦難の時代であり、人々が平和を感じる余地は無い。

「17 次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです。・・・

1 兄弟たち。それらがいつなのか、またどういう時かについては、あなたがたは私たちに書いてもらう必要がありません。2 主の日が夜中の盗人のように来るということは、あなたがた自身がよく承知しているからです。

3 人々が「平和だ。安全だ」と言っているそのようなときに、突如として滅びが彼らに襲いかかります。ちょうど妊婦に産みの苦しみが臨むようなもので、それをのがれることは決してできません。

4 しかし、兄弟たち。あなたがたは暗やみの中にはいないのですから、その日が、盗人のようにあな

たがたを襲うことはありません。」(第一テサロニケ 4:17-5:4)

(2) 「死人の復活 > 携挙」の順の出来事が想定できるのは、患難前のみである。

*大艱難時代中に、復活が生じる預言は無い。(二人の証人を除く)

*黙示録 20 章には、第一の復活が預言されているが、再臨の後の出来事である。

*この復活が、携挙前の復活だとすると、携挙は再臨の後だということになり、話が合わない。

(具体的には、黙示録 19 章における、子羊の婚姻)

(3) 患難時代の苦難は、不信者に対する神の怒りであり、信者に定められているものではない。

「また、神が死者の中からよみがえらせなされた御子、すなわち、やがて来る御怒りから私たちを救い出してくださるイエスが天から来られるのを待ち望むようになったか、それらのことは他の人々が言い広めているのです。」(第一テサロニケ 1:10)

(4) 現代のイエスからの啓示によれば、携挙は大艱難時代の直前に起こる。

5. 携挙に関する幻を紹介

(1) 神からの霊を識別する方法について

A) キリスト(救い主)であるイエスが、肉体となって来られたことを告白しているか?

「愛する者たち。霊だからといって、みな信じてはいけません。それらの霊が神からのものかどうかを、ためしなさい。なぜなら、にせ預言者がたくさん世に出て来たからです。2人となって来たイエス・キリストを告白する霊はみな、神からのものです。それによって神からの霊を知りなさい。3イエスを告白しない霊はどれ一つとして神から出たものではありません。それは反キリストの霊です。」(第一ヨハネ 4:1-3)

B) 身元を明かし、公に証言しているか?

*実名、動画での証し、信者としての実態、本の出版など。

*身元不明だと、特定の神学を肯定するための策略となっている可能性がある。

(2) チュウ・トーマス、アンゼリカ・ザンブラーノ (46分)

大艱難時代の目的

1. 罪人を根絶やしにする

「見よ。【主】の日が来る。残酷な日だ。憤りと燃える怒りをもって、地を荒れすたらせ、罪人たちをそこから根絶やしにする」(イザヤ 13:9)

2. 世界大のリバイバルを来たらせる

(1) 最後の世界宣教が力強く行われる

「この御国の福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての国民にあかひされ、それから、終わりの日が来ます」(マタイ 24:14)

(2) 144000人の奉仕者が選ばれ、多くの人々(大群衆)が救われる。(黙示録 7章)

3. 聖なる民の心を粉砕する(ユダヤ人)

『この不思議なことは、いつになって終わるのですか。』7すると私は、川の水の上にいる、あの亜麻布の衣を着た人が語るのを聞いた。彼は、その右手と左手を天に向けて上げ、永遠に生きる方をさして誓って言った。『それは、ひと時とふた時と半時である。聖なる民の勢力を打ち砕くことが終わったとき、これらすべてのことが成就する。』(ダニエル 12:6-7)

*聖なる民の勢力(自己義認の心)が打ち砕かれるまで、患難期は続く。

大艱難時代に起こる一連の出来事

▼大艱難時代の前期（前半の三年半）

～マタイ 24 : 1-14 を読む～

1. 反キリストが世界の表舞台に登場

*イスラエル・及び世界の指導者たちと結ぶ、七年間の契約。

2. 戦争、飢饉、地震

*世界的に大規模な形で生じる。

3. 不法の増加

*教会と共に聖霊が地上から去り、悪霊の影響が強まる。

4. 世界的な規模の迫害、たくさんの殉教者が出る。

5. 世界中で起こる大リバイバル

「そしてこのみ国の福音が全世界にのべ伝えられて、すべての民への証となる。そのときにこそ終わりが来よう。」(マタイ 24:14)」

*144000 人の印を押された特別な奉仕者たち

▼大艱難時代の後期（後半の三年半）

～マタイ 24 : 14~28 を読む～

6. 反キリストによる契約の破棄、独裁支配の開始

～黙示録 13 章を読む～

(1) サタンが天での戦いで敗北し、獣（反キリスト）に地上の全権を与える。

(2) 偽預言者が登場し、獣の像を拝ませる。反対する者は殺される。*偽の三位一体の登場

(3) ユダヤ人に対する大迫害が始まる。

A) 「ヤコブの苦難の時」と言われている。(エレミヤ 30 : 4 : 7)

B) エルサレムの住人は急いで山（ボツラ）へ逃げないと殺される。(マタイ 24 : 15)

「それゆえ、預言者ダニエルによって語られたあの『荒らす憎むべき者』が、聖なる所に立つのを見たならば、(読者はよく読み取るように。) そのときは、ユダヤにいる人々は山へ逃げなさい。」

(4) 6 6 6 の印（獣の印）が強要される。反対する者は生活できなくなる。

7. 獣の像を拝み、獣の印を受けてはならない。(回帰不能点となる)

「9 また、第三の、別の御使いも、彼らに続いてやって来て、大声で言った。「もし、だれでも、獣とその像を拝み、自分の額か手かに刻印を受けるなら、10 そのような者は、神の怒りの杯に混ぜ物なしに注がれた神の怒りのぶどう酒を飲む。また、聖なる御使いたちと小羊との前で、火と硫黄とで苦しめられる。11 そして、彼らの苦しみの煙は、永遠にまでも立ち上る。獣とその像とを拝む者、まただれでも獣の名の刻印を受ける者は、昼も夜も休みを得ない。12 神の戒めを守り、イエスに対する信仰を持ち続ける聖徒たちの忍耐はここにある。」(黙示録 14 : 9-12)

8. 神の怒りの裁きが重みを増していく。

(1) 七つのラッパの裁き(黙示録 8~9 章) ※ラッパの裁きは、患難時代前半の可能性がある。

- A) 第一のラッパ：地・樹木・草木の3分の1が焼き尽くされる。
 - B) 第二のラッパ：海の被造物の3分の1が死に、船の3分の1が難破する。
 - C) 第三のラッパ：水の3分の1が苦よもぎに変わり、多くの人が死ぬ。
 - D) 第四のラッパ：太陽・月・星の3分の1が強打され、3分の1が暗くなる。
 - E) 第五のラッパ：額に証印の無い人が、五ヶ月にわたって責め苦にあう。
 - F) 第六のラッパ：人々の3分の1が、四人の天使に殺される
 - G) 第七のラッパ：天でキリストの王国が宣言される。七つの鉢の裁きへと展開する。
- (2) 七つの鉢の裁き（黙示録 16 章）
- A) 第一の鉢：獣の像を礼拝する者たちに悪性のはれ物ができる。
 - B) 第二の鉢：海は死者の血のような血になり、海の中の生物が全て死ぬ。
 - C) 第三の鉢：川と水の源が血になり、獣の礼拝者は血を飲まされる。
 - D) 第四の鉢：人々が太陽の炎熱によって焼かれる
 - E) 第五の鉢：獣の国は暗くなり、人々は苦しみのあまり舌をかむ。
 - F) 第六の鉢：ユーフラテス川が枯れ、ハルマゲドンの戦いのための道が備えられる。
 - G) 第七の鉢：稲妻、さまざまな音、雷、史上最大の地震と雹の災害が起こり、人々が神を冒瀆する。

9. 大艱難時代の幻を紹介：ケン・ピーターの証

キリストの再臨

1. 再臨のタイミングは、ユダヤ人の民族的な悔い改め

- (1) ユダヤ人は、イエスを突き刺した民族的罪に気づき、悔い改めて主を呼び求める。
「その日、わたしは、エルサレムに攻めて来るすべての国々を捜して滅ぼそう。わたしは、ダビデの家とエルサレムの住民の上に、恵みと哀願の霊を注ぐ。彼らは、自分たちが突き刺した者、わたしを仰ぎ見、ひとり子を失って嘆くように、その者のために嘆く。」（ゼカリヤ 12：10-11）
- (2) エルサレムに集まる軍勢と戦うため、主はオリーブ山の上に再臨する。
「3 主が出て来られる。決戦の日に戦うように、それらの国々と戦われる。4 その日、主の足は、エルサレムの東に面するオリーブ山の上に立つ。オリーブ山は、その真中で二つに裂け、東西に延びる非常に大きな谷ができる。山の半分は北へ移り、他の半分は南へ移る。」（ゼカリヤ 14：3-4）

2. 天の万象が揺り動かされ、キリストが栄光の王として、天の軍勢と共に再臨する。

～マタイ 24：29-30～を読む

「29 だが、これらの日の苦難に続いてすぐに、太陽は暗くなり、月は光を放たず、星は天から落ち、天の万象は揺り動かされます。30 そのとき、人の子のしるしが天に現われます。すると、地上のあらゆる種族は、悲しみながら、人の子が大能と輝かしい栄光を帯びて天の雲に乗って来るのを見るのです。」

- (1) 文字通りの天変地異が起こる。
- (2) 「地上のあらゆる種族」が人の子を見る ⇒ 地球は丸いが、文字通り成就する。

3. 再臨するキリストの裁き（黙示録 19：11-21）

- (1) 獣と偽預言者は、生きたまま火の池に投げ込まれる。
- (2) 獣の礼拝者は、再臨するキリストに殺される。鳥たちは、彼らの肉を食べる。
- (3) サタンは、千年の間、底知れぬ所に閉じ込められる。

4. 再臨の幻を紹介 *David Jones : 11:00~, 13:40~, *リバーズ・テスキ婦人 : 17:00~